

中野P・たかちゃん @ 坂主字音の



国際交流基金・日本語パートナーズ / インドネシア レポート

★2016年4月号

Selamat siang, apa kabar?

Sebenarnya saya sudah pulang di Jepang tapi baru tulis laporan ini maaf...waktunya cepat sekali yaa..

Aduh bulan April ada banyak perpisahan, jadi saya merasa sedih dan sudah kangen Indonesia..

こんにちは。お元気ですか？

実は日本に帰って来ています。レポート遅くなってごめんなさい。本当に時間が経つのは早いです。

ああ・・・4月はたくさんのお別れ会があり悲しい気持ちとすでにインドネシアのみんなに会いたいという気持ちでいっぱいです。

4月

文化紹介では日本語クラブのみんなとたこやき作り☆

実はあんまりたこやきを作ったことがなかった私はたこやきを作ると決まって内心ドキドキでした。(笑)

でもきつとなんとかなる！関西出身の日本人（日本語パートナーズ同期）に教わり練習してできました☆

さすが関西人！！夕飯がたこやきだけってこともあるって言ってましたがほんと？？

おいしく焼くコツを教わりました。

材料にも工夫があります。だしの素や紅ショウガ、鰹節、青のりなどは日本食スーパーで買うことができましたが、

たこやきソースは日本のものだとハラルではない可能性があるとかで（もちろんハラルのものもあります）

学校の先生と相談してソースは手作りのものを使うことに。

インドネシアのソースでたこやきソースを作りました。

作り方は簡単♪ケチャップマニス（甘い醤油）とトマトケチャップを1：1の割合で混ぜ、

そこにサオリと黒砂糖を加えて出来上がりです☆

え？サオリって日本人じゃないかって？？

実は「サオリ」はオイスターソースの調味料のなまえ。

他にも味の素に似た鳥ガラスープの素で「マサコ」という調味料があったり、

炊飯器メーカーのなまえが「ミヤコ」だったり、日本人のなまえが商品名になっています。(^^)



その他文化紹介活動

- ・学校の授業で風呂敷を紹介。
- ・Cirebon の大学で茶道の文化紹介。
- ・児童養護施設で子供たちと交流。
- ・タンゲランの高校の文化祭のお手伝い（茶道紹介担当）
- ・スリアントくんの小学校でけんだま紹介
- ・近くの高校（SMKN57）でゆかた着付け
- ・デポック中学校で学生と交流（大きなくりの木の下でを歌う）

今月も毎週何かしらイベントがあり、忙しくも充実した日々を過ごすことができました。

今までの活動を振り返ると、インドネシアの方から日本文化紹介としてリクエストされるものは「ゆかた」と「さどろ」がとても多いと感じます。

特にゆかたはいろいろなところで紹介をして、たくさんの人にゆかたを着てもらうことができました。

ゆかたや着物は体のラインが見えない方がきれいということや、下は足首まで、手は手首まで、首元も胸元が見えないようにしっかり紐で縛ってとめるなど話すと、

「イスラム教と似てるね」「日本人もちゃんと肌を隠す習慣があるのね」と感動してくれます。

イスラム教の学生は、さらにヒジャブ（頭にまくスカーフ）をかぶっていますが、そのスカーフとゆかたの色を合わせてコーディネートしていたり、とてもおしゃれに着こなしているのが印象的でした。

インドネシアの文化

「Hari Kartini」

4月21日はHari Kartini カルティニの日。カルティニという女性が女性の教育の重要性を訴えたり、民族意識を高めるための運動など、行ったことにちなんでつけられた日だそうです。

この日はみんな、自分の民族衣装を来て登校してきました。

女の子はインドネシアの民族衣装クバヤを着ている人が多かったです。

授業があると思って登校したら、学校中お祭り騒ぎでびっくり！

先生から「今日はカルティニの日ですから授業はありません。」と一言。昨日わかっていたら私も着物で来たのに・・・とちょっと後悔もありましたが、たまたまインドネシアの民族衣装を来ていたので、生徒に交じって写真を撮り、カルティニの日を満喫しました。

この学校だけの習慣かもしれませんが、この日は朝、全校生徒が集まり、校長先生から Hari Kartini についてお話があったあと、全員民族衣装を着たまま学校の周りを練り歩きました。

1週20分くらいで回れるのですが、普段は履かないヒールで、でこぼこの道を歩くのはちょっとつらそうでした。そのあと、校内ではカルティニにちなんだ様々なコンテストが行われました。

カルティニが女性教育・女性の社会進出を広めた英雄だということにちなんで、「インドネシアの英雄にまつわる速押しクイズ大会」があったり、「Miss SMKN20」を決めるミスコンがあったり、ジャカルタの民族のことば・プタウィー語（ジャカルタ弁）を使った伝統的なコント（漫才？）のコンテストがあったり、コンテストに出る子も出ない子も、この日はみんな着飾って、女の子はお化粧もバッチリで一見だれだかわからないくらい変身している子もいて、どこをあるいてもファッションショーを見ているようでした。

年に1回、こうやって自分の国や地域の伝統的な衣装を身にまとうことで、民族意識も高まり、きっとインドネシア人としての誇りをもつことにも繋がっているのかなと思いました。

日本でも「着物の日」があったら面白いのに。



民族衣装を来て学校の周りを練り歩く☆



*おまけ
 ブタウィー語 (ジャカルタ弁) を教わりました。
 わたしのなまえは～です。: ナメ アエ～
 ～出身です。 : アク ダリ～
 ありがとう : マカシー
 どういたしまして : サメサメ

表彰式！真ん中の子が Miss SMKN20 です☆
 美しさのほかに言葉遣い、立ち居振る舞い、教養、パフォーマンスなどで総合的に評価され選ばれました。

5月は帰国準備や祝日で学校に来られないため、4月で私が入る日本語の授業はおしまい。
2校の学校で生徒や先生とお別れ会をしていただきました。



私からみんなへメッセージと
みんなとの思い出の写真を
スライドショーにして見せた後、
学生からもコメントをいただき、
最後にみんなで別れの曲
「terima kasih guruku」
「ありがとう さようなら」
を歌いました。
一人ひとりと握手してハグして・・・



これはハグが強すぎて
受け止めるのに必死（笑）

クラスの代表で挨拶をしてくれた子の話がとてもうれしかったので紹介します！

「先生、授業ではいつもたのしく日本語を教えてくれて、日本の文化もたくさん教えてくれて
ありがとうございました。最初、日本語は文字も文法も全然違って難しいことばだと思っていたけど、
先生が来てくれて、日本語はとても身近なことばになりました。

だからいまでは本当に簡単と思える言葉にかわりました。私たちのことを忘れないでまた会いましょう。」
こんなようなメッセージをくれました。

「私にあって日本語が簡単な言葉になった」これを聞いて「ああここへ来て本当によかった」と思えました。
言葉を勉強することは、やっぱり話したい誰かがいて、伝えたい思があってできること。

この子たちに「日本人と日本語で話したい」と思ってもらえたなら、私のここでの活動には意味があったと言える
でしょう。

私も高校生の時に初めて外国人と外国語で話して通じたことがうれしくて、外国語を勉強したいと思いました。
インドネシアの高校生にも、「初めて外国人と外国語で会話した」体験が、今後に生きてくれたらうれしいなと
思います。